

令和5年度 学校評価シート

学校名：和歌山県立貴志川高等学校 校長名：林 和哉

目指す学校像・育てたい生徒像（スクール・ポリシー等に基づいて記載する）

- ・自己肯定感が高く、自らの手で未来を切り拓く力を持った生徒
- ・状況を適切に判断し、主体的に行動する力を持った生徒
- ・自己の現状を客観的に捉えることができる「メタ認知力」を持った生徒
- ・年齢や専門性、価値観が異なる他者と協働し課題解決が図れる力を持った生徒
- ・持続可能な社会に向け、新たな発想や的確な行動を生み出す力を持った生徒
- ・地域の発展のため意欲的に学習に取り組み、県内大学等への進学や、就職を実現する力を持った生徒

学校評価の公表方法

本校ホームページに掲載

現状・進捗度

A	十分に達成している。	(80%以上)
B	概ね達成している。	(60%以上)
C	あまり十分でない。	(40%以上)
D	不十分である。	(40%未満)

自己評価（分析、計画、取組、評価）

番号	計画・取組			評価（3月21日現在）			
	重点目標	現状	具体的取組	評価項目と評価指標	進捗度	進捗状況	今後の改善方策
1	① 基本的な生活習慣の確立 ② 自律態度の涵養 ③ 交通安全・災害対策・感染症対策等の危機管理意識の向上	C	基本的な生活習慣の確立及び身だしなみ指導、正しいモバイルツール等の使用について指導の徹底を図る	保護者召還注意指導を繰り返す生徒 0名	B	定期的に身だしなみ指導を各クラスで実施し、改善点を認めながら粘り強く個別指導を行った。	生徒の問題行動に対する特別指導を見直し、さらに生徒に寄り添った指導に見直す。また、緊急時や災害発生時の安全対策についても、さらに学校全体の意識を高めて実効性のあるものとするように取り組む。
			アセンブリー等を充実させ、問題行動の未然防止に努める	問題行動を繰り返す生徒 0名	B	コミュニケーションを大切に全体で周知し、未然防止に努めている。	
			交通安全指導、自転車等整備点検、防災対策、感染症の拡大防止の徹底を図る	交通安全教室、街頭指導等により交通事故等 0件	C	感染防止を徹底し、高校生防災スクール等の体験で、意識の向上を図っている。	
2	① 授業規律の確立 ② 「学び直し」「特別支援教育」の視点を持った授業展開とアクティブな分かりやすい授業づくり ③ 進路意識及び学習に対するモチベーションの高揚	C	始業ベルと同時に授業を開始し、授業規律の確立を図る	ベル着の完全実施 授業課題を少なくする	B	ベル着を概ね定着することができ、課題も減少した。	基礎学力等に課題を持つ生徒も多いため、さらに学び直しに力を入れる。特に、国・数・英では1学期を学び直しに特化し、スタディサプリを新たに導入する。また全校書取も継続し、基礎学力の向上を進路決定につなげていく。
			基礎学力の定着に向けた学習指導（学び直し）及び伸び度が実感できる授業づくり及び通級制度の活用を図る	全員の教科修得、追認合格、進級、卒業を目指す（卒業・進級率 100%）	B	各教科の授業で学び直しに力を入れ、ベネッセと協力したGTZによる基礎学力向上に取り組んだ。	
			キャリア教育の充実と確かな職業観・就職観の涵養及び就職・進学指導の充実を図る	卒業後の進路先決定率 100%	B	学校斡旋就職内定率98%と、県内4年生大学合格4名	
3	① 生徒の実態把握(アセスメント)力の向上 ② SCやSSW、外部機関や保護者との連携を図り、信頼される学校づくりの推進	C	学校生活全般、指導等の機会において日々のコミュニケーションの積み重ねにより、生徒理解及び信頼関係の深化を図る 情報を共有し、正確に生徒をアセスメントするよう努める	挨拶の返答率 90% 家庭、中学校訪問の実施 ケース会議の開催 教育相談担当教員（特別支援CO）及びSC・SSW・保護者との連携	B	生徒指導部長・教育相談・学年主任が各担任と横の連携を強め、ケース会議等を行いながら指導に努めることができた。挨拶は教員も校門指導等で意識して取組みを継続中である。	本校は、生徒一人一人を大切に、寄り添いながら個々に応じた指導・支援を大切にしている。このことを全教員が再認識し、学習保障を図るとともに、学習環境を整えることや問題行動の未然防止、積極的生徒指導に努めていくことで本校の信頼と特色を高めていく。
			SC、SSWの積極的活用、外部機関と連携し、教育相談やケース会議等を充実させて、課題を抱える生徒を支援する。	個々の生徒に応じたきめ細かい指導の充実を図れているか。	B	生徒情報共有会を定期的開催し、教育相談係やSC・SSWと連携し正確なアセスメントを実施できた。	

学校関係者評価（2月15日実施）

(1) 令和5年度総括について

・学校評価票（生徒・外部・教員）集計結果について、昨年度との比較検証を大切に、各教員で意識しながら次年度に活かしていくことが重要である。本校の特色や魅力についての項目は、生徒・外部・教員ともに数値が低くなっており、部活動の活性化や地域との連携を軸に模索していくことが必要である。

・学校の現状報告について、生徒数の減少がこの5、6年で急速に進んでいる。生徒の学力の幅も広く、学習歴や入学動機、家庭環境や生活状況も様々である。今年度は生徒指導面での課題が多く、多様な事象に寄り添って支援を積み重ねてきた。結果として、転学者や退学者が例年よりも多かった。

・今年度は「ベトナム高校生との交流」「韓国女子高校生との交流」「平池イルミネーション」「西山口駅ウォールアート」「紀の川市 花いっぱい運動」「高校生防災スクール」「エコスクール活動」など、特別活動の面で多くの交流・体験・活動をすることができて大変よかった。さらに地域との連携や情報の発信の手段を模索し、広報活動も広がってほしい。

・貴志川中学校との連携交流もさらに継続し、共同で行事等ができないだろうか。

(2) 令和6年度に向けて

・今後の貴志川高校の特色・在り方について、さらに「学び直し」に力を入れ、「探究活動」の科目を設置し、座学以外の体験型授業も行っていきたい。そのためには展望とビジョンを明確にするとともに貴志川中学校をはじめとする地域との連携を図っていくことが重要であろう。

・部活動を活性化させるための取り組みが必要であり、陸上部が高校駅伝に出場したことは明るいニュースである。硬式野球部や吹奏楽部、新たにダンス等、生徒のニーズや実情に合った取り組みを考えないといけない。

・今年度の文化祭はほぼ例年通りの形で実施され、PTA及び同窓会からも出店を実現できたことでさらに協力体制を強めていく必要があるであろう。